

# 日本子育て学会発足に寄せて

藤永 保

白百合女子大学 2009・5・24

## 1. 子育て危機の時代

政治・経済・社会・文化の世界的危機+日本特有の危機 子育てへの集約的表出

危機；葛藤・矛盾・混乱の集積 単純な解決や見透しの困難=社会的システム理論

子育ての曲がり角

時宜に適した発足

## 2. 新学会発足の動機

新しい研究目標=既存学会への不満

心理学界の現状

全体目標や総意の欠如・・・統一資格 国立研究施設 派閥選挙

社会的不信の招来とそれに対する無感覚

伝統的学会とは

領域の等しい研究者間の相互交流=研究同好者団体=単一学会

職能集団・・・資格問題

これに対しての新学会の盛行・・・こども学会 赤ちゃん学会 社会福祉学会 etc

統合領域 異領域研究者間の相互交流と見解の統合

子育て学会も同様だが さらに問題解決への社会的貢献という実践的目標が加わる

関心を持つ一般市民 特に養育者の参加(画)期待

政策的提言・・・実績と信頼

## 3. 子育て学会の課題

既存学会への不満とそこからの脱却

### 1) 運営原理と方式

重層構造？(歩きながら考える)

研究者独善を避け市民層の意見反映 同時に研究としての社会的貢献を

### 2) 他領域との提携・連合

小児医学 福祉関係 教育関係・・・

### 3) 研究テーマ・目標・パラダイムなどの見直し

業績主義=短期的テーマの跋扈 大量データ・長期追跡縦断研究の不足

アメリカ中心主義(フランス・ドイツ中心主義)=西欧的普遍性への無自覚

発達場の軽視=教育の中の発達 特別支援教育か統合教育 塾か学校か 私学か公立か

### 4) 社会的貢献が自己目的

政策的提言 当面は地方自治体レベルで

社会的信頼を担保に 将来目標は国家的レベルで